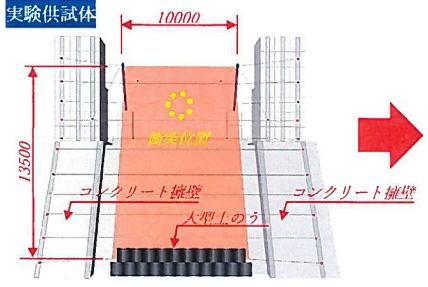
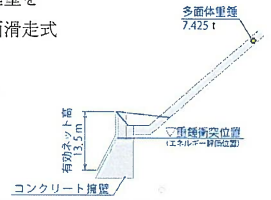


高エネルギー吸収型ポケット式落石防護網 比較表

工法名称 (協会)		強靱防護網 (ネットタイプ) (斜面の安全・安心研究会)	
適用範囲		E=2500kJ (2576.0kJ)	
実験による 性能照査			
	実験供試体	実験方法	実験方法
			<p>○実験方式： コンクリート擁壁を 反力とした斜面滑走式</p> <p>○重 錘：7.425t</p> 
			<p>○網 高：SL=13.5m ○延 長：L=10.0m (13.5m×1 スパン)</p> <p>○供試体面積：135 m² ○緩衝装置：50 組</p> <p>○概 要： ・阻止面は縦ローブが無く横ローブと金網で構成 ・現地に設置される実構造体と大きく異なる。 ・支柱やアンカーは実斜面ではなく、コンクリート 擁壁に設置。</p>
実験結果		実験結果	
		<p>○衝突から停止までの挙動：<u>網裡に大型土のうを設置しているため、最終的な重錘の網裡での停止を確認できていない。</u></p> <p>○重錘の衝突速度：26.41m/s ○阻止面への重錘入射角度：86°</p> <p>○衝突時エネルギー：2576kJ ○阻止面の最大張り出し量：7.39m</p> <p>○高さの変化：3.27m ○緩衝装置の動作状況：良好</p>	
実構造に対する留意事項		<p>・阻止面には縦ローブが無く、金網面の範囲が大きいため、<u>金網部に落石が衝突した場合、金網を突き抜け、道路内へ落石が飛び出す可能性が高い。</u></p> <p>・実験は網裡に大型土のうを設置して実施しているため、<u>最終的な落石を停止させるまでの性能が確認できていない。</u></p> <p>・実験の横主ローブアンカーは、<u>擁壁上のH鋼を介して連結した構造</u>であり、実構造では連結せずにアンカー単独で斜面に設置しているため、<u>反力に対する地盤の評価が確認できていない。</u></p> <p>・最下段横ローブにも緩衝装置が設置されているため、<u>道路内へ落石が飛び出す可能性が高い。</u></p>	
評 価		<p><u>実験では実構造と異なる構造体で、防護性能を確認しているため、信頼性が低い。実験供試体と同様の構造体を現場で施工するか、実構造と同様の構造体で再度実験を行う必要がある。</u></p>	

※落石対策便覧 (平成 29 年 12 月) p148 「検証実験に用いる供試体は、構造体の標準的外形寸法の実物大を原則とする」